

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 5

Japanese Speech Communication 5

2017. 3

日本語音声コミュニケーション教育研究会

Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

目次

発刊のことば

日本語

論文

ベトナム語と日本語の音声における喉頭調節

金村久美・今川博・榊原健一1

実践報告

総合的コミュニケーション能力を目指した日本語音声教育

—イタリアにおける日本語演劇活動の実践から—

上山素子35

著者紹介

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

編集後記

発刊のことは

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。ようやく7年目にして、会誌の発刊という悲願を達成できました。ご協力を賜りました方々に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』(英語名 Japanese Speech Communication)は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2013年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション教育研究会」代表幹事
定延利之

著者紹介

金村久美（かなむらくみ）

名古屋経済大学経営学部准教授

主な研究テーマ：音声学、日本語教育、日本語音声習得

主要業績：「ベトナム語母語話者による日本語の発音の音調上の特徴」『ことばの科学』12:73-91（名古屋大学言語文化研究会，1999）。『映画でベトナム』（分担執筆，南雲堂フェニックス，2007）。「留学生と教員の対話における理解とその要因」『人文科学論集』95:39-50（名古屋経済大学人文科学研究会，2016）。

Kumi KANAMURA, Ph.D.

Associate Professor, Nagoya University of Economics

Main topics of research: Phonetics, Japanese as second language, Speech Acquisition of Japanese.

Main publications: Prosodic features in Japanese speech by native Vietnamese speakers. In *Studia Linguistica*, 12:73-91 (Nagoya Daigaku Gengo Bunka Kenkyuukai, 1999). *Eiga de Betonamu* (Learning Vietnam from Movies) (co-author, Nan-un-do Phoenix, 2007). The major factor affecting mutual understanding of Japanese spoken dialogue between international students and their supervisors. In *The Journal of Science of Culture and Humanities*, 95:39-50 (Nagoya Keizai Daigaku Jinbun Kagaku Kenkyuukai, 2016).

今川 博（いまがわひろし）

工学士、東京大学大学院医学系研究科感覚・運動機能医学耳鼻咽喉科学分野客員研究員

主な研究テーマ：発声時の音声生成器官の運動観測システムの開発等

メールアドレス：imagawa@m.u-tokyo.ac.jp

Hiroshi IMAGAWA, BEng

Visiting Researcher, Department of Otolaryngology and Head and Neck Surgery,
Graduate School of Medicine, the University of Tokyo.

Main topics of research: Development of the observation system of the voice generation
organ at utterance.

Mail address: imagawa@m.u-tokyo.ac.jp

榊原健一（さかきばらけんいち）

北海道医療大学言語聴覚療法学科准教授

主な研究テーマ：音声科学（特に音声生成、音声生理）と歌声

メールアドレス：kis@hoku-iryo-u.ac.jp

Ken-Ichi Sakakibara

Associate Professor,

Department of Communication Disorders, Health Sciences University of Hokkaido

Main research topics: speech science, speech production, speech physiology, singing voice.

Mail address: kis@hoku-iryo-u.ac.jp

上山素子（うえやまもとこ）

ポロニーヤ大学通訳翻訳学部准教授

主な研究テーマ：外国語音声習得、音声学（特に韻律）、日本語教育

主な著作：Prosodic transfer in L2 relative prominence distribution: the case study of
Japanese pitch accent produced by Italian learners. *Proceedings of Speech Prosody*, 2016;
Prosodic Transfer: An Acoustic Study of L2 English and L2 Japanese. Bologna (Bononia
University Press 2012); 「第2言語習得における音節構造認識：日本語と英語の場合」
音声研究 7 (2),84-100, 2003; An experimental study of vowel duration in phrase-final
contexts in Japanese. *UCLA Working Papers in Phonetics* 97: 174-182, 1999; The phonology
and phonetics of L2 intonation: the case of Japanese English. *Proceedings of the 5th*

European Speech Conference, 1997; Phrase-final lengthening and stress-timed shortening effects in the speech of native speakers and Japanese learners of English. *Proceedings of the 4th International Conference on Spoken Language Processing*, 1996.

Motoko UEYAMA, Ph.D.

Associate Professor, Department of Interpreting and Translation, University of Bologna, Italy.

Areas of research: L2 speech learning, phonetics (especially, prosody), Japanese language education

Main publications: Prosodic transfer in L2 relative prominence distribution: the case study of Japanese pitch accent produced by Italian learners. *Proceedings of Speech Prosody*, 2016; *Prosodic Transfer: An Acoustic Study of L2 English and L2 Japanese*. Bologna (Bononia University Press 2012); Awareness of L2 syllable structures: The case of L2 Japanese and L2 English. *Journal of the Phonetic Society of Japan (Onsei Kenkyu)* 7(2), 84-100, 2003; An experimental study of vowel duration in phrase-final contexts in Japanese. *UCLA Working Papers in Phonetics* 97: 174-182, 1999; The phonology and phonetics of L2 intonation: the case of Japanese English. *Proceedings of the 5th European Speech Conference*, 1997; Phrase-final lengthening and stress-timed shortening effects in the speech of native speakers and Japanese learners of English. *Proceedings of the 4th International Conference on Spoken Language Processing*, 1996.

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

『日本語音声コミュニケーション』（Japanese Speech Communication）は、日本語音声コミュニケーション教育研究会の会員であれば、どなたでも投稿できます。（但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。）

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之（さだのぶとしゆき）（代表幹事）

sadanobu[at]kobe-u.ac.jp（[at] の部分を @ に変えてご送信下さい。）

〒 657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学大学院国際文化科学研究科

編集後記

第5号となりました。「研究」と「実践報告」が一つずつです。

前者は、同一話者の発音による2言語音声の対照研究です。現在、最もホットな研究手法の一つと言えるのではないのでしょうか。「4 考察」の最後にあるとおり、「ベトナム語母語話者によるベトナム語及び日本語発音時の喉頭調節のデータ」を採取し、研究を継続することがのぞまれます。

後者は、日本語による演劇活動をコミュニケーション能力全般の向上のための発音教育の一環ととらえたイタリアでの実践報告です。理論的な枠組みとして「演劇と言語教育」「多角的コミュニケーションとしての演劇」「音声教育の課題」にふれ、「台本（シナリオ）作り」、「発音トレーニング・プログラム」、「稽古の流れ」と全容の報告があり、画像によって実際の様子を見ることができます。

日本語教師は、職人だと思っています。職人は、日々技を磨き、研究します。ところが、日本語教師を養成する立場の大学教員が例文を作れない、教材が作れないということがあるように思います。大学教員は、現場での経験、力を問われないからです。そして、現場の日本語教師が教材をこなすばかりで、学習者の日本語力そのものを養成できない、そんな現象が見られます。日本語教師は、たゆまず研究を続けなければならない、本物の職人でなければなりません。その教師を養成する大学教員は、例文、教材を作れるように自らを鍛えなくてはなりません。

一方、一部の日本語学校はすさまじい様相を呈しています。海外の学校がブローカーとむすびついて学生を日本へと送り出す、日本の学校は彼らを夜の工場へとつれていく。私たちは、そういう世界的な人の流れに接しています。そして、私は日本語教師を養成する立場であり、勉強した学生に現実を言わぬわけにいきません。学習者のためと思って教壇に立ったものの、その学習者たちが椅子から崩れ落ちるほどに疲弊している。どうにかして、私は、私のもとから巣立っていく若い人たちを守らなければなりません。

馬場良二（査読委員長）

日本語音声コミュニケーション 5

Japanese Speech Communication 5

インタラクティブ PDF 版

発行 2017年3月28日 初版1刷

著者 日本語音声コミュニケーション教育研究会

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>

発行・製作 株式会社 ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917

郵便振替 00120-8-142852

toiawase@hituzi.co.jp <http://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177